

Vol.85

Vol.85 (2020年 冬号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM 事例・知識 ... 3

Activities / 支部活動 21

Stakeholders / 法人スポンサー紹介 30

PM Calendar / PM カレンダー 32

Fact Database / データベース 33

Editor's Note / 編集後記 37

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆PMI Chapter of the Year Award 2020 を受賞 3
PMI日本支部 副会長 端山 毅
- ◆PMI Japan Festa 2020 結果報告 5
 - ・PMI Japan Festa 2020 全体報告
レポート: PMI Japan Festa 2020 統括PM セミナー・プログラム 大島 康宏
 - ・教えて! 会社員から登録者数100万人の人気YouTubeチャンネル・オーナーへ ～華麗なる転身への道程～
講師: 手綱 友哉 様 レポート: セミナー・プログラム 野々市谷 有里
 - ・世界初の「人工流れ星」実現への挑戦
講師: 岡島 礼奈 様 レポート: セミナー・プログラム 西 慶倫
 - ・大規模災害に対処せよ! ～災害関連死ゼロを目指す取り組み～
講師: 水谷 嘉浩 様 レポート: セミナー・プログラム 近藤 昇久
 - ・よしもと流DXの取り組みについて
講師: 梁 弘一 様 レポート: セミナー・プログラム 松丸 真司
 - ・ラグビーワールドカップ2019日本大会 ボランティア・プログラムのリアル
～史上最も成功したボランティア・プログラムに至るまでの道のり～
講師: 佐藤 洋平 様 レポート: セミナー・プログラム 鴨下 恵一
 - ・全社員リモートワークの幸せな働き方改革
講師: 倉貫 義人 様 レポート: セミナー・プログラム 玉置 志津
 - ・第一生命におけるIT プラットフォーム戦略 ～基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ支援案件～
講師: 太田 俊規 様 レポート: セミナー・プログラム 大谷 真也
 - ・DX最前線 ～DX時代に求められるPMコンピテンシーとは～
講師: 今井 俊哉 様 レポート: セミナー・プログラム 鬼束 孝則
 - ・越境型フルリモート組織の作り方とマネジメント
講師: 平田 麻莉 様 レポート: セミナー・プログラム 豊田 光海

Activities / 支部活動

- ◆PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2020 21
PMコミュニティ活性化委員会 委員長 森田 公至
LM2020運営チーム・リーダー 伊熊 昭等
- ◆PMI日本支部 中部ランチ 創立5周年にあたり 26
中部ランチ代表 PMI日本支部 理事 井奈波 誠
- ◆中国コミュニティが立ち上がりました! 28
PMI日本支部 副会長 浦田 有佳里
- ◆事務局長退任のご挨拶 29
PMI日本支部 事務局長 吉田 一弥

Stakeholders / 法人スポンサー紹介 30

- ・株式会社パスコ

PM Calendar / PM カレンダー 32

- ・PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 33

Editor's Note / 編集後記 37

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

PMI Chapter of the Year Award 2020を受賞

PMI日本支部 副会長 端山 毅

PMI日本支部は、2019年の活動が評価され、PMI が選ぶ最も優秀な支部としてChapter of the Year Award 2020（以下、Chapter Award）を受賞しました。東アジアおよび東南アジア地域の支部として初の受賞でした。



【Chapter Award とは】

審査観点は以下の5点です。

- 1) 会員に提供した価値
- 2) PMI標準類を活用したプロジェクトマネジメント発展への貢献
- 3) 会員増及び会員継続率向上の取り組み
- 4) ボランティア活動の活性化
- 5) 2019年における顕著な活動成果

本賞の受賞は、世界300支部の中でも先導的な支部として日本支部が運営ノウハウを他支部に展開することが期待される存在になったことを意味します。Chapter Awardは、会員数によって、25～300人、301～1500人、1501人以上の3部門がありますが、日本支部は1501人以上の部で、中央イタリア支部と共に受賞に至りました。

【アジア太平洋地域代表から世界代表へ】

審査観点に合わせて日本支部の活動実績をまとめた応募書類を7月に提出し、9月にFinalistに選ばれたとの連絡を受けました。Finalistは、アジア太平洋、EMEA、北米、南米の地域ごとに選ばれるので、この時点でアジア太平洋地域代表になったわけです。そして10月17日のPMI北米LIM（Leadership Institute Meeting）において、最終的な受賞発表がありました。例年であれば大きな会場で盛大にお祝いしてもらえますが、今年はVirtual Conferenceでの授与となりました。

【日本支部の功績】

日本支部は、ここ数年会員数が堅調に増加し、会員の継続率（Retention Rate）は常にトップクラスで推移していました。フォーラムやフェスタ、多数のセミナー、研究会と委員会活動など、会員ボランティアに支えられた誇るべき活動実績は枚挙に暇がないほどでした。中期計画、法人スポンサー、リーダーシップミーティングなど、他支部には例を見ないユニークな制度や取り組みもあり、産業界のみならず教育機関や行政機関との連携、他団体との協業も広がりを見せていました。改めて応募書類にまとめてみると、長年に渡る活動の積み重ねと改善工夫の跡をたどることができました。これまで日本支部で活動して頂いた多くのボランティア、先達の功績が認められたのだと思います。

【応募に至るまで】

2019年、PMI北米Global ConferenceでChapter AwardのFinalistに選ばれた支部の講演を聞きました。これなら勝てるというのが実感でした。問題は、英語で書くこと。単に言語が英語であるだけでなく、論理構成をアメリカのビジネススタイルに合わせることが重要だと思いました。日本人の謙遜は禁物。結論から入って、堂々と言い切る。そして主張を裏付ける実例、数値を示すこと。国際連携委員会内での議論を経て、ネイティブにも見てもらって応募書類を仕上げました。

応募した時点で勝って当然とは思っていません。中身は申し分ないはず。逆に、今年を逃すと、数年は無理だろうと不安になっていました。実はコロナ禍の影響で会員数が伸び悩み、継続率も下がり始めていました。来年応募するには、論理構成を抜本的に見直す必要が出てきます。他支部に比べれば日本支部は今も際立って堅調な会員数を維持していますが、来年応募するとしたら、コロナ禍にどう対応したか、またNew Normalにどう移行したかを語ることになるでしょう。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI Chapter of the Year Award 2020を受賞

【世界に向けての情報発信】

受賞後、11月5日付けで日経XTECHに

「英語で発信すれば、日本のプロマネ活動は全世界から評価される」

が掲載され、日本支部のPMI Chapter Award受賞を紹介して頂きました。片江会長と谷島宣之氏（日経BP総研）のインタビューを受け、事実関係を率直にお伝えしたところ、谷島氏は、

「誇るべきを自認して世界に発信せよ」

というメッセージでまとめてくれました。慎重深く、しかし、有益な情報を積極的に発信、共有していくことは、社会に貢献すると同時に自らを見つめ直す絶好の機会になります。

日本が遅れていると卑下する必要はありませんが、日本は違うと異次元論を展開するのも建設的でないと思います。社会の変化に対応して確信を持って取り組んだ実績を、胸を張って英語で、そして世界が受け取れる論理展開で披露し、多様な人々と交流して、違和感のある居心地の悪さから新たな境地に至る努力を続けることが大事だと思います。

【舞台裏での秘話】

ところで、10月17日の授賞式（日本時間は18日未明）で流れた日本支部紹介のビデオや片江会長のスピーチは事前に準備したものです。表彰状代わりの金色の封筒がひと月前に送られてきて、

受賞は確定していました。しかし、秘密厳守を求められ支部内でも極少数の人しか結果を知りませんでした。片江会長のスピーチは、事務局が使えないので、自由が丘のカラオケボックスで収録しました。多くの理事や事務局員にも、とぼけた



受け答えをしていました。この場を借りてお詫びします。

【明日に向けて】

プロジェクトマネジメントの活用能力向上を図り、社会に貢献するというPMI日本支部の原点を忘れずに、会員一人一人が成長を続け、今後は繰り返しChapter Awardを受賞していきましょう。谷島氏にも書いて頂きましたが、次は、日本からProject of the Yearを目指します。



「日本支部活動紹介」としてPMI本部に送った写真

PMI Japan Festa 2020 結果報告

【Festa2020】セミナーレポート

PMI Japan Festa 2020 全体報告

レポート：PMI Japan Festa 2020 統括PM
セミナー・プログラム 大島 康宏

2020年11月7日(土)、8日(日)の2日間にわたり、「PMI Japan Festa 2020」のライブ配信を実施しました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、初のオンライン配信のみの開催としました。また、10日から15日までは録画した10講演をオンラインで配信しました。

Japan Festaは、PMI日本支部のセミナー・プログラムのボランティアが主体となって企画・運営を行うもので12年目（PMI Tokyo Summer Festaから数えると13年目）となります。

企画は2020年2月にスタートし、その時点では昨年同様の慶應義塾大学日吉キャンパスを会場の有力候補とし、その他会場と比較検討していくこととしていました。しかし、全く収まる気配がない新型コロナウイルス禍の中で会場開催を断念し、6月に完全リモート配信での挙行を決定しました。

今年のテーマは
『予期せぬ危機に決断せよ！
～ 危機を乗り越える新しい時代のプロジェクトマネジメント～』

危機下に決断するリーダー、決断を実行するメンバーの2つの点に注目しました。Festaの特色でもある多様な業界から10人の講師をお招きし、熱意のこもった講演を実施いただきました。全てライブ配信として、参加者の質問をリアルタイムで受付け、お互い顔は見えなくとも一緒に時間を共有できるようにしました。

開催前のWeb告知においては、予告動画により何かを期

待させる演出から始め、講演初日にはカウントダウン動画でFesta2020が開幕しました。

https://www.youtube.com/watch?v=8Q_LmLHayFs

第1講演は、講師とセミナー・プログラム司会の対談です。この対談のためにPMI日本支部事務局会議室の通信環境を何度も下見・視察し、必要最小限の機材を配置して特設配信スタジオを作りました。対談者それぞれを別々のカメラで撮影し、画面を合成。質問文を記載した画像を作成し背景として表示。試行錯誤の配信テストを行う中で決まった配信方法でした。

講演と講演の間は15分間の休憩となりますが、ここでは受講者の疲れをほぐすヨガ動画を配信しました。これは登壇いただく講師との連携企画で、昨年から引き続く企画でした。また、過去のFestaの場面をスライドショー形式で流す思い出ムービーを配信し、Festaの歴史とボランティア活動の裏側を受講者に知っていただくことができました。これは、私達セミナー・プログラムのボランティア・メンバーにとっても当時の懐かしさを感じるものとなりました。

<https://www.youtube.com/watch?v=kMwOuGTiuLA>

2日間で10講演を配信しました。閉幕の挨拶を終え、最後の閉幕動画が流れた後、受講者よりたくさんの拍手の書き込みと温かいメッセージをいただきましたが、それまでの必死のボランティア活動の努力が報われた瞬間でした。

昨年まで現地会場で実施していた際も、同時中継は行っていましたが、配信は外部業者に委託していたため、私達自身

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI Japan Festa 2020 結果報告

だけでリモート配信を行ったのは今年が初となります。10講演全てについて数回ずつのリハーサル、慣れないメンバーのための配信練習会、オンラインでの内部打ち合わせなど、Festa開催前日の夜遅くまで準備作業を行ったため、その時間と労力は今まで経験したことが無いほど膨大なものとなりました。

しかし、その甲斐もあって、当日2日間は大きなトラブルなく終えることができました。受講者アンケート結果からは、

今年のFestaの総合的評価は、99%の高評価（大変よかった45%、よかった54%）をいただきました。

2021年のFestaも秋の開催を予定しています。コロナ禍でどのような開催方式になるかはまだ見通せませんが、受講者の皆様はもちろん、運営側の私達も満足できる、楽しいイベントを創り上げていきたいと考えていますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

イベント運営に関わったセミナープログラム スタッフ一同



支部事務局参集班



自宅作業班

【Festa2020】セミナーレポート(No.1)

教えて！ 会社員から登録者数100万人の 人気YouTubeチャンネル・オーナーへ ～ 華麗なる転身への道程 ～

講師：手綱 友哉 様

レポート：セミナー・プログラム 野々市谷 有里

【セミナー概要】

- 開催期日：2020年11月7日(土) 12:10～13:10
- タイトル：教えて！ 会社員から登録者数100万人の人気
YouTubeチャンネル・オーナーへ
～ 華麗なる転身への道程 ～

□講師：手綱 友哉 様

□講師のプロフィール：

- ・B-life 合同会社 代表
- ・就職氷河期に入社したITベンチャー企業が2年で倒産。再起を目指して単身カナダへ留学。
- ・ビジネス英語と米国公認会計士を武器にして、エルメスやディズニーといったグローバル企業で経営を学ぶ。
- ・2016年に独立し、妻のMarikoとともにYouTubeチャンネル「B-life」を開設。
- ・開始4年で87万人以上の登録者を獲得し、女性向けヨガ・フィットネス部門で日本一になる。
- ・動画撮影・編集から、経営・ブランディング・マーケティングまで何でもこなすマルチクリエイター。



レンであるはず。では、人気YouTuberは、そもそもどんな工夫を重ねることでチャンネル登録者数を伸ばしていったのか？そんな疑問を持ったことが、今回の講演を企画するきっかけとなりました。

【講演の内容】

アナリストとして活躍されていた会社員から、独立をした当時は投資家になることを目指していたという手綱様。

決して、最初からヒットさせようと意気込んでYouTubeチャンネルを開設したのではなく、人気ヨガ・インストラクターであった奥様のMarikoさんが妊娠を機に教室運営側との契約が全て終了してしまったため、レッスン提供の新たな場として選んだのがYouTubeでした。

チャンネル開設当時、「バレトン」(バレエ・ヨガ・フィットネスの要素を取り入れたエクササイズ)のレッスンを配信しましたが、再生回数は思ったほど増えず、半年間は無収入でした。その後、数値の良かったヨガの動画を増やす方針へ転換した結果、YouTubeの検索アルゴリズムにうまく乗り、“推奨動画”として表示されるようになったことで、あっという間に登録者数が伸びていきます。

手綱様からは、「B-life」がチャンネル登録者数100万人を超えるまでに至ったその成功のエッセンスとマネタイズの方法について、以下のようにお話いただきました。

- インストラクターのやりたいことよりも、視聴数の多い動画と同様のものを中心に配信する。
- ヨガはポーズが見易いことが重要なので、カメラは2台使って角度を変えて配信する。(他のヨガ動画との差別化)
- 最初からターゲットを絞らない。
- 無料の視聴者を大事にする。広告はヨガレッスン開始前に

【はじめに】

2020年の年明けには予想もしなかった、4月の外出自粛要請。

筆者の周りで「ネットの動画をよく見るようになった」、「見るだけでなく、YouTubeで何か配信してみようかな」と言った声を聞くようになりました。とはいえ、これだけ動画が世の中に溢れる中、視聴者を増やしていくことは、かなりのチャ

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■ PMI Japan Festa 2020 結果報告

流し、レッスンの邪魔にならないように気を配る。

- 自分たちが普段使っていない商品を「チャンネルで紹介してください」という依頼が来ても、お断りする。(視聴者との信頼が大事、ブランドを守る)。
- 検索のアルゴリズムは公開されていないが、再生回数が多いことよりも、再生時間が長い方が、検索結果として表示される可能性が高い。
- 広告を挿入することができる(=収入が増える)8分間以上の動画を作成する。(ただし、ユーザー体験を下げないように注意が必要。)

そして、プロジェクト・マネジャーの皆さんが今後YouTubeの配信を始めることにあたってのアドバイスも併せてお話をいただきました。

- まずはスマホ一台から始めてみることでOK。
- ヨガのようなコンテンツでなければ動画の質にこだわる必要はなく、音声聞き取りやすいことの方が大事。
- とにかく、コンテンツ(内容)が重要!
- プロジェクト・マネジャーは人をまとめることが得意だと思うので、演者を連れてきて配信を始めても良いのでは。
- 自分で全てをやる必要はなく、格安で外注できる編集等のサービスを利用する。

今や、「B-life」チャンネルを見た人から、本の出版や雑誌のインタビューの依頼が次々と入り、宣伝をしなくても活躍の場が広がっています。台湾でも本が出版され、近々スペインでも出版の予定があるそうです。

最後に、今後の活動について、これからヨガのブームが来るであろう、フィリピンやタイなどにも広めていきたいとの構想を語っていただきました。

【講師担当余話】

手綱様との最初の打ち合わせで「対談形式での講演」をご提案いただいた際には、正直なところこの初の試みがうまくできるのか不安しかありませんでした。十分な機材もないところから準備を進めてくれた、事務局スタッフとセミナー・プログラムの仲間たちの底力でなんとか実現することができ、今はやってみてよかったなと思います。うまくいかなかったことは「失敗」ではない、うまくいくまで新しいことをひたすら試してみるのみ、と語られた手綱様のお言葉に大変共感しました。

今回の講演をきっかけに、受講者から新たなYouTuberが誕生したらおもしろいですね。

ご自身の経験からそのノウハウをオープンにお話いただいた手綱様に改めて感謝いたします。

【Festa2020】セミナーレポート(No.2)

世界初の「人工流れ星」実現への挑戦

講師：岡島 礼奈 様

レポート：セミナー・プログラム 西慶倫

【セミナー概要】

- 開催期日：2020年11月7日(火) 13:25～14:25
- タイトル：世界初の「人工流れ星」実現への挑戦
- 講師：岡島 礼奈 様(株式会社ALE 代表取締役社長／CEO)
- 講師のプロフィール：
1979年生まれ。鳥取県鳥取市出身。東京大学大学院理学

系研究科天文学専攻にて博士号(理学)を取得。在学中に、サイエンスとエンターテインメントの会社を代表取締役として設立。大学院卒業後、ゴールドマン・サックス証券へ入社、自己資本投資業務に従事。その後、2009



Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI Japan Festa 2020 結果報告

年から人工流れ星の研究をスタートさせ、2011年9月に株式会社ALEを設立。現在、代表取締役社長/CEOを務める。2017年、人工流れ星に関するコンセプトが評価され、JAXAの「革新的衛星技術実証プログラム」に選出。2019年1月にJAXAのイプシロンロケットに人工流れ星用の人工衛星初号機が搭載され、打ち上げ成功。同年12月、Rocket Lab社のエレクトロンロケットに人工衛星2号機が搭載され、打上げ成功。2023年に世界初の「人工流れ星」実現を目指す。「科学を社会につなぎ 宇宙を文化圏にする」を会社のMissionに掲げる。人々の好奇心を育む宇宙エンターテインメントと、気候変動の解明に貢献する中層大気データの活用を通じ、科学と人類の持続的な発展への貢献を目指す。

【はじめに】

私が岡島様を知ったのは、昨年9月に六本木ヒルズで開催された、宇宙を感じる1dayカレッジ「これからの宇宙の楽しみ方」というイベントでした。その中で初めて人工流れ星のお話を聞き深く印象に残りました。その後、ある書籍のなかで、株式会社ALEのMission Vision Valueを紡ぐ様子を知ること、ぜひ岡島様のお話を聞いてみたいと思いました。株式会社ALEや人工流れ星プロジェクトをここまで育てる中で体験した事や、ビジョン・ミッションを作り上げる様子は、プロジェクトマネジメントに関わる方々が興味を持って聴いていただけるお話だと考え、またコロナ禍のなか、もう一度空を見上げて、未来に思いを馳せる、そんなきっかけになれば良いと考えて講演をお願いしました。

【講演概要】

冒頭の、カール・セーガンのPale Dot Blueへのオマージュだったという言葉で始まる会社紹介の動画は、その後の講演を期待させる内容でした。気になる方は、株式会社ALEのホームページ (<https://star-ale.com/>) で確認して見て下さい。

このカール・セーガンのPale Dot Blueというのは、1990年にボイジャー1号が地球から60億km以上離れたところで地球を見て振り返って取った写真で、その写真の地球は「ほ

かの星屑に紛れた小さな青白い点に過ぎなかった」に由来します。いっぱい星がある中で生命がいるこの地球という星をどれだけ大事にしないといけないか、そして天文学を研究する事が、人間が謙虚であるべきことを気付かせ、一個しかない地球の上で争っている事などに、何の意味があるのか、そういう問いかけをしている、と紹介されていました。

中盤の、人工流れ星の技術的なお話では、人工流れ星を輝かせるためにキーになるのは、流れ星の粒の速度だということや、流れ星が輝く中間圏場所を観測する事が気候変動のメカニズム究明に繋がるということをお話いただきました。

そして、終盤の岡島講師の、「力不足から、なかなか方向性を示せない、苦勞した時代があり、ビジョン・ミッションを半年かけて言葉に落とし込んで、それを社内に浸透させるために頑張り、採用の時に、こういう会社というのを大事に伝えていった事で、会社が組織として動いていくことになった」、というお話は、プロジェクト・リーダーとしても大変共感できる所でした。

【講師担当余話】

株式会社ALE様ホームページの素敵なMission・Vision・Valueに惹かれて、これを創り上げる場所はプロジェクトマネジメントに関わる方々が興味を持って聴いていただけるということ、私自身が宇宙好きで、2018年9月度月例セミナー「宇宙ステーションにかけた夢」を受講して、セミナー・プログラムのボランティアに参加したことをお伝えし、講演を快諾いただきました。

講演までの間に、企業ステートメントやビジュアルのアップデートがあり、講演冒頭で紹介された動画を見て、講演を待ち遠しく感じていました。

講演後も、講演内で紹介された「EDTを利用したデブリ化防止装置」の販売代理店を見据えた契約締結といったニュースもあり、ますます目が離せない企業だと思いました。2023年の人工流れ星を心待ちしています。

今後の月例セミナーやJapan Festaでも宇宙を舞台に活躍されている方に講演していただけるよう活動していきたいと思っています。

【Festa2020】セミナーレポート(No.4)

大規模災害に対処せよ！ ～ 災害関連死ゼロを目指す取り組み ～

講師：水谷 嘉浩 様

レポート：セミナー・プログラム 近藤 昇久

【セミナー概要】

□開催期日：2020年11月7日(日) 15:55～16:55

□タイトル：大規模災害に対処せよ！

～ 災害関連死ゼロを目指す取り組み ～

□講師：水谷 嘉浩 様

□講師のプロフィール：

- 全国段ボール工業組合連合会
防災アドバイザー、一般社団法人避難所・避難生活学会 理事、
- Jパックス株式会社 代表取締役
- 災害関連死ゼロを志に掲げ、「避難所の景色を変える！」ことをライフワークとして活動中。
- 1970年、大阪府生まれ。大阪府八尾市にある段ボールメーカー（祖父が創業した会社）の3代目。



【はじめに】

2011年の東日本大震災のとき、水谷様は食料などの物資を被災地に届けに行ったところ、体育館の冷たい床に雑魚寝という避難所のつらい環境を目の当たりにしました。人がひしめき合い、床に直に寝ていることから、エコノミークラス症候群や床から舞う粉塵によって呼吸器系の疾病を引き起こすなど二次健康被害を誘発してしまう環境です。そこで段ボールメーカーであることを活かして段ボールベッドを考案し、「ストップ・ザ・雑魚寝！」を合言葉に、被災地に届ける活動を始められました。

東日本大震災では地震による直接死が約16,000人だったのに対して、避難後の生活環境等に起因する関連死は約3,500人、2016年の熊本地震では直接死50人に対して関連死200人と4倍の方が震災後に亡くなられています。関連

死はpreventable death（防ぐことができる死）とも言われ、対策を講じることが極めて重要です。

水谷様は9年間でさまざまな被災地の避難所400ヵ所以上を訪ねて、約3万床の段ボールベッドを届けました。避難所の環境改善を通じて災害関連死を減らす取り組みを行うと同時に、段ボール産業界が災害時に避難所を支える防災協定の仕組みを構築して全国に普及するよう取り組んでいます。

【講演の内容】

日本の避難所は体育館に雑魚寝の生活で、避難生活が長期化すると健康被害に及び、平成の災害関連死は約5,000人、避難所の環境に起因する死が51%にもなるそうです。水谷様は、この雑魚寝をなくするという取り組みを東日本大震災直後から開始されました。

一般的な段ボール製造機で、段ボールベッド1台分にかかる時間は約3秒、10,000人分でも1日で作れるそうです。水谷様は過去10年間の取り組みにおいて、ほとんどの都道府県と防災協定を締結し、北海道から沖縄まで全国3,000社の段ボール会社の1,000台の機械を使って、日本中どの災害でも届けられるようにしました。しかしながら、段ボールベッドの受け入れについて行政の手順が標準化されておらず、ベッドを届けても使われずに倉庫にしまわれてしまうことがあり、使われる仕組みづくり、法律の整備が課題として残っているとのこと。

雑魚寝はエコノミークラス症候群を誘発し、元気なひとでも突然死してしまうことを指摘されました。エコノミークラス症候群の要因は、同じ姿勢が長時間続く、脱水、過度のストレスの3つ。避難所では、床に座ったまま動かない、トイレが不衛生で使いたくないので水を飲まない、食事がパン、カップラーメンで十分な水分が取れない、そして被災した大きなストレスがあり3条件が全て当てはまります。段ボール

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI Japan Festa 2020 結果報告

ベッドの普及につれて災害関連死は減ってきていますが、トイレや食事の改善、障がい者、妊婦、乳幼児にも配慮された環境改善が必要とのことでした。

質疑応答では、コロナ禍における避難所について参加者から質問がありました。新型コロナ対策として避難所環境を改善しないといけないという動きが国・自治体で出てきているとのこと。換気、床に寝ない、検温、マスク、ソーシャル・ディスタンスなど、多角的な対策を取る必要があり、その中で雑魚寝が急速に解消する可能性が出てきており、避難所が劇的に変わることが期待されるというお話しで締めくくられました。

【講師担当余話】

2020年7月に初めて水谷様とオンラインでお話しさせていただきました。段ボールベッドで避難所の環境改善を図る

というユニークな取り組みのみならず、最も感銘を受けたのは、水谷様が避難所の環境改善の活動を10年も続けられた理由、モチベーションについてです。水谷様がおっしゃるには「災害関連死をゼロにすると決めた。要は志。やる気があるか、ハートがあるかどうか。災害支援の本質はそこ。命令されて動くものじゃない。」

ご講演では時間の関係で触れられなかったのですが、水谷様からみなさまへのメッセージをここでお伝えします。

なぜ10年も活動を続けられたのか？

- 残された時間は僅か！
- やりたい事以外はやらない！
- 人のために汗を流すことは、強烈な快感！
- 同時に、自己の生存戦略！
- 死ぬ時に、自分に納得できる人生を！

あなたの夢は何ですか？

【Festa2020】セミナーレポート(No.5)

よしもと流DXの取り組みについて

講師：梁 弘一様

レポート：セミナー・プログラム 松丸 真司

【セミナー概要】

□開催期日：2020年11月7日(土) 17:10～18:10

□タイトル：よしもと流DXの取り組みについて

□講師：梁 弘一様

□講師のプロフィール：

- 1996年吉本興業入社。初仕事は一人での企業WEBサイトの立ち上げ。以来、ネット配信、モバイルコンテンツ、CRM等デジタル事業全般を担当。
- 2012年より吉本総合芸能学院(通称 NSC：New Star Creation)で芸人、作家、スタッフなど人を育てるスクール事業を経て、2015年よりソフトバンク



社のロボット「Pepper」の中身を育てる事業に携わる。

- 2020年6月より、吉本興業 テクノロジー開発本部(新設) 本部長として、攻めと守りのDXを推進中。

【はじめに】

本年度のPMI Japan Festaのテーマは、「予期せぬ危機に決断せよ」。

私が講師選定活動を始めた2020年初頭は、“2019年の危機”と聞き思い出された出来事として、吉本興業社の闇営業問題がありました。講師の選定の最初の段階から、吉本興業様が「どのように危機を乗り越えたか」お聞きしたいと思い、頭の中では候補に挙げていました。しかし、交渉を進める中で吉本興業様のイメージには無かった、「危機下でのDXの取り組み」があることを知り、社内で先頭に立ってDXを推進

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI Japan Festa 2020 結果報告

されている梁様に講演をお願いするに至りました。

【講演の内容】

コロナ禍での吉本興業、デジタルによるマネタライズのチャレンジ、DXに向けての課題、2030年に向けて、の各テーマでお話しいただきました。

新型コロナウイルスの影響で、常設劇場、テレビ収入、イベント営業などなどの売上は低下。そのような中で、吉本興業様はタレントさんの個の力が発揮できる場の創出が鍵だと考え、そのような場の例として、「吉本自宅劇場」や「オンラインチケットよしもと」をご紹介いただきました。

DXの課題としては、コンテンツプラットフォーム構築、お客様のつながり、データの活用とのこと。この課題を打破し、B2Cビジネスを今後も拡大していくとのことでした。

吉本興業様の醍醐味は「笑い」。その笑いをデータとテクノロジーを駆使し、新しい分野へ向けてたゆまずチャレンジしていく。社のDXを担っておられる梁様から、ワクワクするお話をいただきました。

【講師担当余話】

梁様に登壇いただくまでのアプローチとして、私の友人(吉本興業の某芸人の兄) → 某芸人のチーフ・マネジャー → 窓

口役員(広報担当) → 梁様 という経路で何とかたどり着くことができました。

しかし、その役員の方からは「2019年に経験した闇営業危機については、一般の方にお話しできない部分が多々ある」とのことでした。当然と言えば当然のことなので、吉本興業様の講演についてはあきらめムードに沈んでいた中、「吉本ではDXにも取り組んでいるんですよ」という興味深いお話を伺ったことから、梁様にお講演いただける運びとなりました。

比較的早い時期から私の構想にあったにも関わらず、私自身の本業との兼ね合い、吉本興業様へのアプローチ方法(テーマ選定)に時間を要し、梁様と具体的に講演準備の打合せを持つことが出来たのは10月中旬で、Festa当日まで1か月を切っている状況でした。私自身の本業が多忙で連絡時間の確保もままならない中、具体的講演内容の決定、講演リハーサル等を考えると本当に間に合うのか・・・。

極めて不安な状況下でしたが、午後9時から深夜に及ぶZoom打合せなど、梁様の多大なるご協力をいただき何とか当日にこぎつけました。

このような、バックヤードの“ドタバタ”も想像しながら、2021年のPMI Japan Festaにもご参加いただけると楽しいかも!です。

【Festa2020】セミナーレポート(No.6)

ラグビーワールドカップ2019日本大会
ボランティア・プログラムのリアル

～ 史上最も成功したボランティア・プログラムに至るまでの道のり ～

講師：佐藤 洋平 様

レポート：セミナー・プログラム 鴨下 恵一

【セミナー概要】

□開催期日：2020年11月8日(日) 9:30～10:30

□タイトル：ラグビーワールドカップ2019日本大会 ボランティア・プログラムのリアル
～ 史上最も成功したボランティア・プログラムに至るまでの道のり ～

□講師：佐藤 洋平 様

□講師のプロフィール：

- 1986年 大阪府大阪市生まれ
- 小学校1年生よりラグビーを始め、立命館大学体育会ラグビー部副将を務める
- 2009年 立命館大学卒業、株式会社リンクアンドモチベーション入社
- 2018年 公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会に転職、同Workforce Training Managerに就任
- 現在 佐藤洋平事務所 代表、日本スポーツボランティアネットワーク 特別講師、株式会社官民連携事業研究所 マネージャー、株式会社リンクアンドモチベーション ナビゲーター



ランティア・スタッフが関わった大規模プロジェクトを統括された佐藤洋平様に、プロジェクトの実際を伺うことができました。

【講演の内容】

大成功に終わったワールドカップですが、その運営プログラムは多くの縦割り組織の複雑な集合体からなっています。その中の一組織でボランティアトレーニングのリーダーとして経験された内容を、コミュニケーションマネジメント、ステークホルダーマネジメントの観点からお話いただきました。

トレーニングに関わるステークホルダーは、ボランティア以外に組織委員会や地方自治体等多岐に渡り、国籍、性別、年齢、雇用形態等、さまざまです。言語はもちろん、共通文化は全くない状況でした。集まったボランティアもラグビーワールドカップを知っている人は半数だけ、ボランティア活動未経験者が6割の状態でした。佐藤様が大事にされたのは、ボランティア・スタッフ自身が、自分達が行うことの意味を理解し、ポジティブに楽しむことです。

その意識を植え付けるために、就任後ボランティア・プログラムの内容を見直し、変更を断行されました。先ず大会のコンセプトやワールドカップ独特の世界観を伝えるために研修内容、スケジュールを全面的に変更しました。ボランティア・プログラムのミッション、ビジョン、バリューを見直し、ボランティアは単なるお手伝いではなく、特別な雰囲気を生み出す大会の顔であり、チームワークが大切であることを研修内容に盛り込みました。この内容で進めるため、他部署、開催都市自治体等の関係者を当事者として巻き込むこととしました。

しかし、自治体毎の文化の違い、タスク毎の時間軸の差、

【はじめに】

昨年のラグビーワールドカップは皆さんの記憶にもあるはずですが、日本でラグビーがあそこまで盛り上がるとは思っていなかったのは私だけではないと思います。東京スタジアムで観戦した際、多くのボランティア・スタッフが笑顔で案内してくれていたのを覚えています。この13,000人ものボ

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI Japan Festa 2020 結果報告

複雑な意思決定構造で日本の組織委員会単独では何も意思決定できない等、多くの障害に直面しました。このような苦境でミッションを達成するコツとして、目的が何でどのように達成するかを意識して判断する、常にプランBをもつ、さまざまなステークホルダーが理解できるよう現地・現物・現実でエビデンスを残す、意思決定者に直訴できるラインを作る、朗らかに健康を保つことを心がけ、折れずに動き続けることを強調されました。

今回のテーマ「予期せぬ危機に決断」するのに大事なことから、①何を達成したいか明確にした判断軸をもつ、②些末なことにとらわれて判断を間違えない、③リスクを想定して起こった事象に直ちに対応する、④腹をくくってやり遂げる覚悟をもつことを挙げられました。目的地さえはっきりしていればいつかたどり着きます。

質疑終了後に、ラグビーワールドカップは一生に一度ではなく、2025年または2043年に再び日本で開催される可能性のあることをご紹介いただきました。

【講師担当余話】

ご講演では、質疑の後に再度お話をすることを希望され、時間通りに終わるかが私の懸念事項でした。スライド数も多く途中で随分心配しましたが、結果的には時間通りに終了して下さり、ほっとしました。

ボランティア・スタッフによる企画遂行というのは、私たちセミナー・プログラムメンバーにも通じるものがあり、大変興味深い内容でした。ボランティア自身が楽しむことを大事にするという言葉は、私たちセミナー・プログラム、ひいてはJapan Festaにぴったりの内容だったと感じています。

【Festa2020】セミナーレポート(No.7)

全社員リモートワークの幸せな働き方改革

講師：倉貫 義人 様

レポート：セミナー・プログラム 玉置 志津

【セミナー概要】

- 開催期日：2020年11月8日(日) 10:45～11:45
- タイトル：全社員リモートワークの幸せな働き方改革
- 講師：倉貫 義人 様
- 講師のプロフィール：

- ・株式会社ソニックガーデン 代表取締役社長
- ・大手SIerにて経験を積んだのち、社内ベンチャーを立ち上げる。
- ・2011年にMBOを行い、株式会社ソニックガーデンを設立。月額定額＆成果契約で顧問サービスを提供する「納品のない受託開発」を展開。全社員リモートワーク、オフィスの撤廃、管理のない会社経営など新しい取り組みも行っている。



【はじめに】

コロナ禍をきっかけに、日本では急速にリモートワークが進み、オンライン会議が一般的になりました。私の家族は、2月以来、今まで一度も出勤していません。その間に、人事異動があり、業務内容も少々変わったようですが、特段の問題なく働いています。やれば出来るのだなあと思うばかりです。

一方で、すべてのケースがうまくいくわけでもありません。今回は、ある意味で無理やりの変化のため、それに伴う弊害の声もニュースなどではよく流れています。

とはいえ、コロナ前の状態に完全に戻ることはないでしょう。そんな時に思い出したのが、倉貫様でした。10年近く前からリモートワークの取組みを開始され、今や全国あちこちから社員全員がリモートワークというスタイルを築き上げられた倉貫様の眼には、今の状況はどのように映っているのだろう？先駆者の視点でのお話をぜひ聞いてみたい。そんな

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI Japan Festa 2020 結果報告

気持ちで、講演をお願いしました。

【講演概要】

倉貫様には、2017年に月例セミナーでご登壇いただいています。そのときは、「納品のない受託開発」と題したご講演でした。あれから3年、ソニックガーデンは納品がないだけでなく、他にも2つ、何かがない会社になっていました。「通勤のない働き方」と「管理のない会社経営」です。

今回のご講演は「通勤のない働き方」がメインテーマですが、現在、ソニックガーデンでは約50名の社員が22都道府県でお仕事されているそうです。そこへ至るまでの経緯や、実際にどんな感じでお仕事されているのかをご説明いただきました。

個人的に非常に納得できたのが、オンラインを先にする、オンライン・ファーストの考え方です。会議室での会議に、自分だけがオンラインで参加している状態を想像すると、よくわかります。発言なんて、最後に「何かある？」と言われない限りできないでしょうし、ずっと他人の話を遠く（物理的距離はもちろん、心の距離）で聞いているのですから、疎外感も感じるでしょう。でも、オンライン・ファーストで考えると、みんなが公平に、同じ立場で参加できる。そういう意識の転換が大切なのだと感じました。

また、オフィスに代わるものの重要性についてのお話も興味深く伺いました。オフィスにはさまざまな役割がありますが、その役割の一つ一つについて、「これはこれで代替できる」と考えて残ったのが、「ちょっといいですか」の大切さ。気軽に話しかけられる環境が無くなることで、生産性が下がったり、孤独感を感じたりするようになります。それを代替するものとして、物理オフィスへ出社する代わりに、仮想オフィスに論理出社する、と考えられたのが、いかにもエンジニア出身の倉貫様らしいなぁと感じました。

「バーチャルオフィスのバーチャル会社見学」を拝見しましたが、何かものすごく特別な、驚くような革新的な仕組みで実現されているわけではないようです。論理出社は音声なしのテレビ会議状態のようなものとおっしゃっていましたが、人によってはその状態を、監視されていると感じるケースもあるでしょう。そうではなく、リアルタイムに一緒にいるという感覚で寂しくないと感じるためには、ベースに深い信頼関係があるのだなと思いました。

無いものがたくさんあるソニックガーデンですが、助け合い、協力、信頼関係など、あるものもいっぱいあります。「通勤のない働き方」を支えているのが、きっと、「管理のない会社経営」なのでしょう。途切れることのない大量の質問に、お時間許す限り回答いただきましたが、たくさんの質問が残りしました。次の機会には、「管理のない会社経営」について、じっくりお話を伺いたいなと思いました。

【講師担当余話】

講演冒頭で、「視聴者の皆さん、ほんとにいるのかなって思いながら話してます」、「反応いただきたいのでチャット欄に書き込みを」と発言された途端、驚くような勢いで、チャット欄が埋まりました。何となく一方通行感の強いオンラインセミナーですが、こんな双方向コミュニケーションがあるのだと感じた瞬間でした。受講者の皆さんとつながった気がしました。

同日の最終講演終了後、私たちスタッフへの温かいチャット・メッセージをくださった受講者がたくさんいらっしゃいました。倉貫様がそんな雰囲気盛り上げてくださったのかと思います。今後のオンラインセミナーへの大切なヒントをいただいた講演でした。倉貫様、受講者の皆様、本当にありがとうございました！

【Festa2020】セミナーレポート(No.8)

第一生命におけるITプラットフォーム戦略 ～ 基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ支援案件 ～

講師：太田 俊規 様

レポート：セミナー・プログラム 大谷 真也

【セミナー概要】

□開催期日：2020年11月8日(日) 12:45～13:45

□タイトル：第一生命におけるITプラットフォーム戦略
～ 基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ支援案件 ～

□講師：太田 俊規 様

□講師のプロフィール：

- 第一生命保険株式会社 ITビジネスプロセス企画部 フェロー・シニアエグゼクティブITスペシャリスト
- 1991年同社入社、メインフレームの運用管理業務、サーバー基盤・WEB基盤の開発業務、ネットワークシステムの構築業務などを担当。2002年より、IT企画部門にて、2000拠点のサーバー集約化、サーバー仮想化、内線電話のIP化、データセンター移転、クラウド基盤導入、インターネットブレイクアウト構成導入などのインフラ分野における大規模案件の企画立案・開発推進業務に従事。現在は専門職として、主にシステムインフラ分野・サイバーセキュリティ分野を担当する。
- 中小企業診断士、システム監査技術者、ネットワークスペシャリスト、マイクロソフト認定技術者。



構築プロジェクトを進め、システムの俊敏性を高めつつ、外部のサービスやコンテンツと連携することを目標としてプラットフォーム改変にあたっておられます。システム全体を作り変えることなく、新たなニーズに対応されるこの活動は、金融庁の「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」の支援案件に決定されています。本講演では第一生命株式会社におけるITプラットフォーム戦略と構築プロジェクトについて、その概要をご紹介いただきました。

【講演の内容】

第一生命におけるプラットフォーム戦略に関して、プロジェクトを実際に進められる中で生命保険会社特有の課題を折り込みながらお話いただきました。

生命保険の特徴としては、データ量の多さ、拠点数の多さ、商品の複雑さに加え、個人情報などセキュリティに関する対策を厳密に図る必要があることが紹介されました。

このプロジェクトの中で特徴的なのが、既存インフラの効率化を進めながらクラウドなど新しいインフラを構築していくということです。

ご講演の中ではプロジェクトのタイムスケジュール、目標とするインフラストラクチャ、チーム構成なども説明いただき、同様のITプロジェクトを進める方には好例になったものと思います。また、大手保険会社ビジネス独自の視点の紹介は大変興味深いものでした。

【はじめに】

第一生命保険株式会社ではQ o L (Quality of Life) 向上に貢献することが新たな付加価値となるとして、「プロテクション（保険）」から、「プリベンション（予防・早期発見）」という役割を考えていらっしゃるとのことでした。

付加価値を実現するためクラウド基盤のプラットフォーム

【講師担当余話】

私は機械設計関係の仕事をしているのですが、専門分野以外のビジネスに関してのお話はとても興味深く拝聴させていただきました。お話いただいた内容をぜひ私の業務にも生かして行きたいと思いました。

初めて講師担当PMとなり、右も左もわからない状態でし

たが、太田様の丁寧かつ迅速なサポートで極めてスムーズに
責務を果たすことができました。太田様、ありがとうございます

ました。

【Festa2020】セミナーレポート(No.9)

DX 最前線

～ DX時代に求められるPMコンピテンシーとは ～

講師：今井 俊哉 様

レポート：セミナー・プログラム 鬼束 孝則

【セミナー概要】

□開催期日：2020年11月8日(日) 14:00～15:00

□タイトル：DX最前線 ～DX時代に求められるPMコンピテンシーとは～

□講師：今井 俊哉 様

□講師のプロフィール：

- Ridgeline株式会社 CEO
- 約30年にわたり、コンピュータ・メーカー、ITサービスプロバイダー、電子部品メーカー、自動車メーカーに対し、全社戦略、営業マーケティング戦略、グローバル戦略、IT戦略などの立案、組織・風土改革、ターンアラウンドの実行支援などのプロジェクトを多数手がける。富士通を経てブーズ・アレン・アンド・ハミルトンに14年在職。その後、SAPジャパン（バイスプレジデント）、ベイン・アンド・カンパニー（パートナー）、ブーズ・アレン・カンパニー（代表取締役）、PwCコンサルティング（副代表執行役）を経て、2020年4月より現職。



いました。会社に行きたくても行けない、家から出ることもままならない、そんな状況が世界中を襲うとは誰も予想できなかったことでした。企業はこれまでとは異なるアプローチとスピードでの事業運営を迫られ、変化出来ない企業は危機的な状況に追い込まれることとなりました。

こうした状況を受けて、DXの最前線を最もよく知るエキスパートの今井氏へ、現場で起きていることやPMに求められることを伺うことは、現場を支えるプロジェクト・マネジャーの皆さんには極めて有益ではないかと考え、本講演に至りました。快く引き受けいただきました今井氏には心より感謝申し上げます。

【講演の内容】

コロナによる企業活動への影響を背景にDXに対する本気の取り組みが迫られています。昨年まで企業は働き方改革という合言葉の下、これまでの延長線上で改革をおこない、その価値を内外に訴求してきました。しかしこのコロナは、一企業や業界だけでなく世界もろとも呑み込む異次元の脅威となり、社会を翻弄しています。

一方で、この危機的状況からニューノーマル時代の幕が開き、デジタル化を軸としたDXへの取り組みが一気に進む結果となっています。そして今、企業はまさに「決断」し生き残りをかけたチャレンジを仕掛けています。

こうした背景をもとに、現在企業が取り組んでいるDXの実情やその課題、そしてDXを支えるために必要なコンピテ

【はじめに】

働き方改革、その後DXへの取り組みが社会で叫ばれるようになり、企業はそれぞれのペースで取り組みを進化させてきました。しかし2020年に入り、その状況は一変してしま

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI Japan Festa 2020 結果報告

ンシーについて、DX請負人の今井氏へ対談形式で伺いました。

- このコロナ禍によって、DXへの必然性が高まってきた。
否が応でも従わざるを得ない状況。
- 痛みを伴う事象もあるが、意外にも白いワイシャツのサラリーマンはリモートでも対応できた。
- リモートのような働き方改革が進んでも、人を評価する側、能力や仕組みがついていないところが課題。
- 評価者側には、適切に評価する能力、評価する客観的な材料、コミュニケーションが必要。
- アフターコロナの取り組みとしては、グローバル・サプライチェーンの再構築、現在世界で国際分業しているがそれゆえのリスク、それは防衛だけでなく、食糧、エネルギー、部品など、イチ・ゼロではないためそれをどのように緩和していくのが今後の課題と言える。
- リモート会議が増えてくると会議の秘匿性が難しくなってくる。同じ部屋に誰がいて聞いているか分からない、そのため人事ごとなど秘匿性の高い内容のものはFace to Faceで行うなどの配慮が必要になってくる。
- 企業は本当に変えなければならないことに絞り、変えるようになった場合にはこれまでのやり方を肯定しない姿勢が大切である。
- 取り組みにあたってはデータで検証することが有効で、客観的な判断につながる。
- フラットに議論できる環境が必要で、データを調べているのは現場のスタッフであることからスタッフの皆さんは堂々と伝え、マネジメントによってそれを拾うことができ

る環境が重要である。

そして、プロジェクト・マネジャーの皆さんへの次のようなメッセージをいただきました。

- PMは、Intellectual Riskを取って欲しい。
- お客様や周囲に忖度して総和で合意できそうな内容でプロジェクトを進めるのではなく、お客様と意見が異なった場合は「必要なコンフリクトだ」と思って、議論すべき。
- また、プロジェクトは一人ではなくTeamで当たるべきで、自分で抱え込むのではなく、いろんな人の能力や意見を取り入れることを意識する。
- DXによってPMとして価値を出せるチャンスが増えたので、頑張ってください。

【講師担当余話】

今井様とのブリーフィングではPM視点での質問を軸に話を構成させていただきましたが、話題の広さや深さに驚かされました。全てにおいて実際にご経験されたものばかりであるため、共感させられることが多く、その内容もセッションで皆さんと共有したいと思ったほどでした。また、データによる分析やアクションの必要性も痛感させられ、お客様対応だけでなく社内における人事評価まで、客観的な視点での評価は今後のニューノーマルでもこれまで以上に求められる要素だと気付かされました。

今井氏のご経験を元に、貴重なお話をいただきましたことに改めて感謝いたします。

【Festa2020】セミナーレポート(No.10)

越境型フルリモート組織の作り方と
マネジメント

講師：平田 麻莉 様

レポート：セミナー・プログラム 豊田 光海

【セミナー概要】

□開催期日：2020年11月8日(日) 15:15～16:15

□タイトル：越境型フルリモート組織の作り方とマネジメント

□講師：平田 麻莉 様

□講師のプロフィール

- 一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会 代表理事
- 慶應義塾大学総合政策学部在学中にPR会社ビルコム創業期に参画。Fortune500企業からベンチャーまで、国内外50社以上において、広報の戦略・企画・実働を担い、戦略的PR手法の体系化に尽力。
- 現在はフリーランスで広報や出版、ケースメソッド教材制作を行う傍ら、2017年1月にプロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会を設立。プロボノの社会活動として、政策提言を始めとする6つのプロジェクト活動、フリーランス向けベネフィットプランの提供などを行い、新しい働き方のムーブメントづくりと環境整備に情熱を注ぐ。政府の検討会の委員・有識者経験多数。
- 日本ビジネススクール・ケース・コンペティション (JBCC) 発起人、初代実行委員長、パワーママプロジェクト「ワーママ・オブ・ザ・イヤー2015」、日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2020」受賞



歳就業機会確保が企業にとって努力義務となります。

これからの働き方の参考になるのではないか、また正社員0、全員複業、全員プロボノ、フルリモートという組織のマネジメントが、コロナ禍でリモートワークが増え、ほとんどのプロジェクトマネージャーが直面しているリモートワークでのマネジメントが受講者にとって、極めて参考になるのではないかと思います、今回ご講演を依頼いたしました。

【講演の内容】

広義のフリーランスとは「特定の企業や団体、組織に専従しない独立した形態で、自信の専門知識やスキルを提供して対価を得る人」で、2020年は460万人いると試算されています。多くの企業が副業を解禁し、会社員は、収入を得るため、スキルアップ、自己実現等さまざまな理由で副業・兼業に挑戦する人が増えています。副業の敷居が下がり、多様な働き方が可能・かつ求められる時代になっています。

ご講演の前半では、フリーランスの現状、協会の設立経緯についてお話いただきました。

後半では、フリーランス協会が、全国4拠点に42名のスタッフ（正社員0）、全員が副業、プロボノ、フルリモートで運営しているいくつかのプロジェクトの具体的な運営方法、ミドルキャリア以降の雇われない働き方の可能性と留意点についてお話いただきました。

フルリモートでのマネジメントでは、プロジェクトメンバーの自律を促すリーダーの役割は非常に重要で、情報共有・価値観の共有、結果を出すための行動指針を徹底することが必要です。行政や200社を超える賛助企業を巻き込みながら複数のプロジェクトを運営する手法や乗り越えた課題については、私達が抱えている課題の解決方法等のヒントになるようなキーワードがいくつもあり、とても参考になりました。

【はじめに】

終身雇用・年功序列・新卒一斉採用が当たり前だった時代から、働き方は大きく変化し、人生100年時代と言われる今、令和3年4月には、改正高年齢者雇用法が施行され、70

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■ PMI Japan Festa 2020 結果報告

【講師担当の余話】

平田様とのWebでの打合せの際、平田様の背後には二人のお子様達が、母親の打合せの邪魔をすることなく、仲良く遊んでいる姿が映っており、とてもほのぼのとした気持ちになりました。コロナ禍で働き方がさらに大きく変化した2020年ですが、これからも働く環境は変化していくと思

います。

未来の組織のマネジメントを自ら実践中という平田様のますますのご活躍を期待しております。

この度はお忙しいところ、ご講演をお引き受けいただき、ありがとうございました。

Activities / 支部活動

PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2020

PMコミュニティ活性化委員会 委員長 森田 公至
LM2020運営チーム・リーダー 伊熊 昭等

2020年9月12日(土)にオンラインによる「PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2020」を開催しましたので報告します。

■ LM2020のテーマ

今年で6回目になるこの会議は、戦略委員会のひとつ、PMコミュニティ活性化委員会（委員長 森田公至理事）が中心となって企画しています。PMI日本支部（以下「日本支部」）の各部会（委員会、研究会、プログラム）から、リーダーやアクティブメンバー2～3人に参加いただき、今後のPMI本部や日本支部のビジョンや方向性、施策などを共有したり、参加者のリーダーシップ育成を目指したワークショップを行ったりすることで、よりアクティブな部会活動を促し、PMコミュニティを活性化させるのが目的です。

最終的には、部会メンバー51人、会長・理事・監事16人（内、運営チーム16人）、PMIアジア・パシフィック3人、事務局4人の合計83人が参加し、まる一日にわたり熱い議論が展開されました。

今年の主テーマは「ニューノーマル時代の変革期における日本支部の役割」です。「ニューノーマル」とは、「新しい常識・常態」という意味ですが、世界的な新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに社員が出社せずに業務が遂行できるリモートワークの普及、IT基盤のインフラ整備やビジネスモデルの変革、DX（デジタル・トランスフォーメーション）が急速に進む現況を指す言葉として世に広まりました。

ニューノーマル時代において日本支部の活動のあり方を会員メンバーで討議して、活気あふれるボランティア活動とするための中期計画や次年度計画へ反映する提言としてまとめることにしました。

■ 初めてのリモート開催

今年のリーダーシップ・ミーティングの大きな課題は、リ

モート開催で行うワークショップでのグループ討議方法でした。過去5年間は集合形式の会場で6～8グループを構成して、ホワイトボードやポストイットなどを使用して行っていました。会場で行っているのと同様のグループ討議がリモート開催であっても実施可能かが課題でした。

部会の定例会などで使用していたリモート会議ツールZoomにはブレイクアウト・セッションと呼ばれる、参加者をいくつかの小部屋（少人数）に分けて、それぞれで話し合ってもらえる機能があり、グループ数、参加人数、割り振りの設定が可能です。運営チームとして使用した経験がないため、何度かテストを行って確認しました。

また、Zoomのブレイクアウトルームにはホワイトボードが準備されて自由に書き込みできますが、その成果をまとめる場合、機能が不十分なため他のホワイトボードツール（オンラインツール）の併用が必要でした。

調べてみるとmiro、Google Jamboard、Microsoft Whiteboard、Muralなど、有償・無償のツールがいくつかあります。運営チームで評価検討をしたものの、どれも一長一短でLM2020用の最適なオンラインツールとしての決め手がありませんでした。このような状況でしたが、無料で、ポストイット的な使い方ができ、操作が簡単という理由によりGoogle Jamboardを採用することにしました。

運営チーム・メンバーの殆どは未経験のツールでしたのでその後、何回か運営チームでワークショップのリハーサルを行いました。しかし、なかなかスムーズに使いこなすことができず、これで大丈夫という確信がないまま不安を抱きながら本番当日を迎えました。

■ 開催概要

LM2020最初のアジェンダである基調講演は、「PMI 4.0: PMI 2020年から今後の展望」という題目で、シンガポールからリモート参加でSoHyun Kangさん（リージョナル・エンゲージメント・ヘッド、アジア太平洋地域支部統括マネジャー）にスピーチをいただきました。昨年のPMI創立50

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2020

周年以降の取り組みとして、進行中のPMIプロダクトのロードマップや、一般市民を対象としたプロジェクトマネジメント認定資格の創設、COVID-19後のプロジェクトマネジメントの重要課題、2022年に向けて目指すことなど今後のPMIの展望や、日本支部への期待についてプレゼンテーションしていただきました。今年の説明資料は日本語で作成されており、さらに通訳として西野しず香さん（ATPコーディネータ、日本市場スペシャリスト）がサポートしてくださり、大変分かりやすい講演でした。



片江有利会長



SoHyun Kang さんによる講演

次に、本年度から就任された片江有利新会長から「ニューノーマル時代の変革期における日本支部の役割」という題目で講演していただきました。ニューノーマル時代ではエンタープライズPMOの役割が重要になるという観点で、PMOグローバルアライアンスが開催したグローバルハッカソンで論議された課題や示唆を参考にしながら、コロナ禍での日本支部での取り組みや、今後取り組みたいことについて説明がありました。

この中で、日本支部の2019年の活動が評価され、PMIが選ぶ最も優秀な支部として日本支部がChapter Award Finalistにノミネートされていることが紹介されました（LM2020開催後、10月17日にPMIからChapter of the Year Award 2020が発表され、日本支部が見事Chapter Awardを東アジア及び東南アジア地域の支部として、初めて受賞しました）。

■グループ討議と成果発表

午後は、「ニューノーマル時代の変革期における日本支部の役割」という題目でワークショップ（WS）を行いました。まず、森田委員長の説明により「すべての世代の個人のライフステージに応じた価値の実現を訴求する」という日本支部の中期計画の取り組み方針と、30代以下の会員が少ない日本支部の現状や、個人セグメントごとにカスタマーが求める価値に応じたサービスを提供するという課題について情報共有を行いました。

WSのファシリテーションは経験豊かな十返文子さんに担当いただきました。



ファシリテーターの十返文子さん

WSのグループ討議では、AからHの8グループ（討議メンバーは各7人）に分け、なるべく部会メンバーがバラバラになるよう考慮しました。また、オンラインでの討議をスムーズに進めるため、運営チームのメンバーが一人ずつ「WSサポート」という役割で各グループへ入り、ツールの使い方や進行をサポートしました。ターゲットとする4つのカテゴリーは、「部会メンバー」、「新規メンバー」、「ネクストジェネレー

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2020

ション」、「外部ステークホルダー」とし、それぞれ2グループで討議してもらいました。



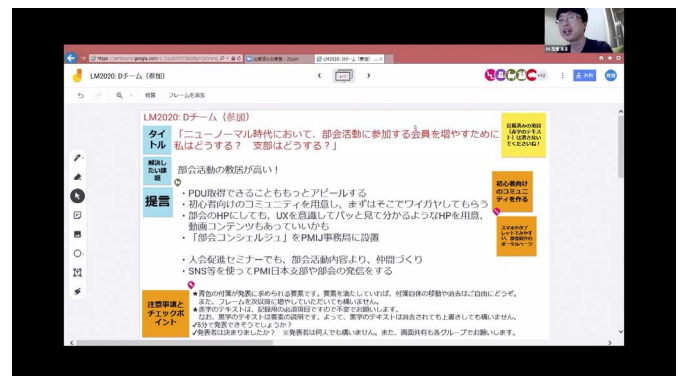
ワークショップの構成

WSの進め方としては、(1) あらかじめ検討をお願いしておいた事前課題の回答や気づきの共有により課題の絞り込みを行い、(2) ブレインストーミングと親和図法による方策を検討、(3) 具体策を盛り込んだ提言としてまとめ、(4) 結果を発表する、というステップとしました。Zoomのブレイクアウト・セッションを使用した30分間のグループ討議を3回行いました。

参加メンバーは、初めて使うオンラインツールGoogle Jamboardに慣れていないためか、最初のセッションでは多少戸惑いも見られましたが、最終的には各グループのオリジナリティが盛り込まれたまとめ方となりました。運営チームでの準備段階では上手くツールを使いこなすことができず、本番ではどのような不安がありましたか、さすがプロフェッショナルなメンバーの集まりで、まとめ方、成果発表レベルとも秀逸であり心配は杞憂に終わりました。

最後は、各グループの成果発表と質疑応答です。今年は発表時間を短くしたので個別の質疑は行わず、他のメンバーから質問やコメントをZoomのチャット機能を使って自由にアップしてもらいました。

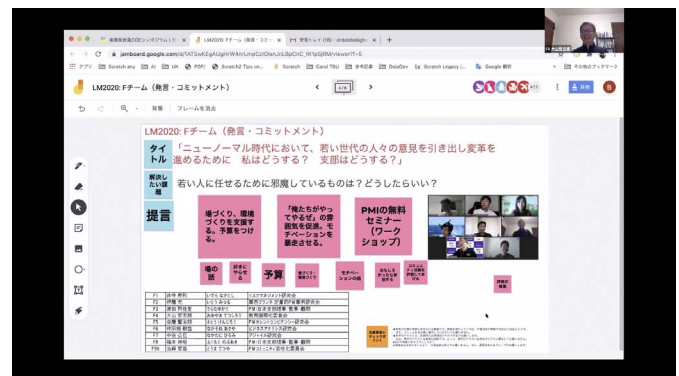
どのグループの発表も充実した内容でしたが、参加者全員によるZoomの投票により、「部会活動の敷居が高い」という課題に対して「部会コンシェルジュ」設置などの提言を行ったDグループと、「若い人に任せるために邪魔しているものは？ どうしたらいい？」という課題に対して場づくりやモチベーション向上の提言を行ったFグループの2グループが優秀賞に選ばれました。



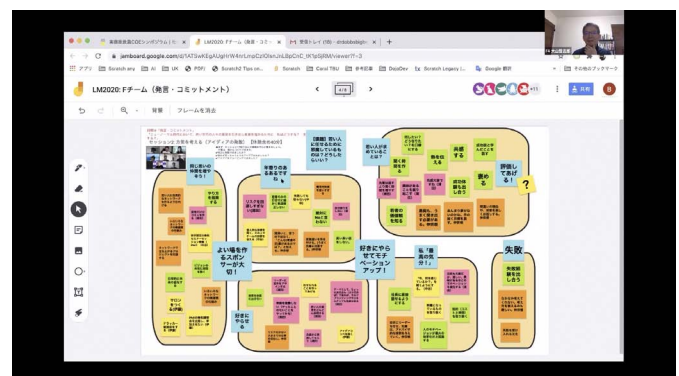
Dグループの提言



Dグループの親和図



Fグループの提言



Fグループの親和図

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2020

解散式では、浦田副会長の全体講評があり、全員でオンライン上の記念撮影を行いました。

例年のような全員が一同に会した夕食とネットワーキング、その後の懇親会（二次会）という形はとれませんでした。Zoomのブレイクアウト・セッションを使ってランダムにグループに分け、「リモート・ネットワーキング」を行いました。各自が準備した飲み物で各部会間の交流促進ができたものと思います。



浦田有佳里副会長の講評



森田公至委員長

これらの議論が来年度の各部会の活動計画に反映されるとともに、日本支部のミッション員会に引き継がれ中期計画遂行のための材料になることが期待されます。なお、参加者へPMP資格維持のPDUとしてLeadership 5.5PDUが付与されました。

■LM2020の効果

LM2020の効果について、組織活性化の観点と、個人のスキル向上の観点の2点に大別してまとめます。

1. 情報共有によるPMコミュニティの活性化

PMI本部や日本支部の活動の方向性がオープンになり、会

長・理事・部会リーダー・アクティブメンバーが一緒になってコミュニケーションする場を持つことで、アクティブメンバーにとってのボランティア活動の価値がより深く理解され、モチベーションの向上につながり、日本支部での活動が活発化される効果が期待されます。

2. 個人のリーダーシップ・スキル向上

LMで日本支部活動に必要なセグメンテーションを議論し、課題と提言をまとめるというワークショップに参加することで、部会の中でのリーダーシップ発揮に役立つだけでなく、各自の実務におけるプロジェクトマネジメント実践にも役立つスキルを習得できます。今までは、アイデア創出の思考能力開発、問題解決手法の習得、ビジョンと活動をつなぐロジックの構築とベネフィットのKPI設定などを学びましたが、今回はそれらを総合的に活用して「ニューノーマル時代に適合した支部活動」への解決策を討議するリーダーシップの実践の場となっています。また、学んだことを部会活動に適用できるように、希望する部会にはフォローアップをするようにしています。

■最後に

日本支部として6回目となるLM2020は、開催方法が昨年までと全く異なる方法であったにもかかわらず、これまでの企画、準備、実施の経験が生かされ、運営チームと事務局が連携したチームワークも良く、ワークショップの運営でも臨機応変の素早い対応ができ成功裡に終了することができました。参加いただいた部会リーダー、アクティブメンバーの方々へのアンケートでは、高い満足度評価をいただき、プロジェクト憲章の「成功の基準」を達成することができました。

LM2020開催の準備・運営の企画は、LM2015からLM2019までの運営を経験した伊熊昭等、吉田謙一氏、松本 弘明氏、高橋正憲氏、当麻哲哉氏、十返文子氏、中本 妙華氏、谷藤 樹之氏、清水 眞理氏に加えて、新たなメンバーとして、藤井新吾氏、伊藤芳彦氏、岩岡泰夫氏、山本智子氏、大橋知子氏とPMコミュニティ活性化委員会 委員長の森田理事を加えた16名から構成する強力なLM2020運営チームでありました。

6月のキックオフミーティング後チームを立ち上げてから開催までわずか3カ月の短い期間であったものの、伊熊リーダーを中心としてメンバーの献身的な努力と、日本支部の吉田事務局長、事務局の西山かおり氏他のご尽力もあって、開催にこぎつけました。

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2020

他のチャプターでは例を見ない日本支部独特のリーダーシップ・ミーティングを開催することにより、日本支部のPMコミュニティをより一層活性化させることができ、毎年恒例のイベントとして継続的な開催が定着しています。アンケート結果をもとに、次年度に向けてさらなる改善を検討していきたいと思います。

参加された皆さま、およびご協力くださったボランティア・メンバーやスタッフの方々に、この場を借りて心からの感謝を申し上げます。



LM2020参加者

PMI日本支部 中部ブランチ 創立5周年にあたり

中部ブランチ代表

PMI日本支部 理事 井奈波 誠

はじめに

PMI日本支部中部ブランチは、2015年11月14日の設立会のスタートから5周年を迎えることができました。これまで中部地域を中心に活動されている多くのPMI日本支部会員の皆様、法人スポンサーの皆様、プロジェクトマネジメントにご関心のある多くの皆様からご支援をいただき、活動を継続してまいりました。

この場を借りて、御礼申し上げます。

中部ブランチ主催 創立5周年特別セミナー

中部ブランチの5周年イベントとして9月26日(水)に、特別セミナーをウェビナー方式で開催しました。

テーマは「未来に向けて中部の思いをつなぐ」です。中部からの情報発信ということで、産官学の3つの立場から、PMIの「タレント・トライアングル」で提唱されている、テクニカル、リーダーシップそしてストラテジーの3つのスキルについて、意義や期待、事例などを皆様と共有すべく企画したものです。

登壇いただきました3名の方々からは、現場の臨場感を含め、非常に貴重なノウハウ、事例をお話ししていただくことができ、参加者の方々にも多くの気づき、共感、課題認識を持っていただけたと考えています。

テーマ：「未来に向けて中部の思いをつなぐ」

実施日時：2020年9月26日(水)13:30～17:30

開催形式：ウェビナー

視聴者数：約300名



講演 1

【講演者】

国立大学法人岡山大学 副理事（研究・産学共創担当）・URA

内閣府 上席科学技術政策フェロー

佐藤 法仁 氏



【テーマと概要】

SDGs、AIそしてコロナ禍

～ 変革の時代に求められるイノベーション創出人材と組織とは何か ～

SDGsに向かうためのヒントやAI戦略や社会との関わりなどを解説いただき、新しい社会と価値の創造について、我々も意識して取り組んでいかなければならない点をお伝えいただきました。

講演の最後には、失敗の容認、脱・知の停滞、沈黙考についてもメッセージ発信していただき、「共にできることは共に」というお言葉は、まさに産学官連携を推進するための頼もしいお言葉であったと感じました。

講演 2

【講演者】

トヨタ自動車株式会社 IT先行開発

部主査、株式会社トヨタシステムズ

取締役 細川 昌宏 氏



【テーマと概要】

システム開発の「失敗の本質」

トヨタ自動車としてのこれまでのシステム開発の取り組み、課題認識のお話をしていただき、デジタル化、オープン化など次世代のIT環境への変革の必要性をお伝えいただきました。その変革については、成功だけではなく失敗もあり、そ

Activities / 支部活動

■PMI日本支部 中部ランチ 創立5周年にあたり

の失敗の振り返りについて整理していただき、アジャイルなどを取り組まれている参加者の方々に向けて良い参考事例を共有いただくことができました。ぜひ参考にしてまた今回のようなセミナー等で共有いただけたら幸いです。

講演3

【講演者】

国立大学法人名古屋工業大学 工学部 情報工学専攻 教授、同大学情報基盤センター長 松尾 啓志 氏



【テーマと概要】

名古屋工業大学における13年間の情報基盤整備過程と、コロナ禍における遠隔授業・リモートワークへの取り組み

大学における情報基盤整備の取り組みと、新型コロナウイルスの感染防止の渦の中で取り組まなければならなくなったことについてお話いただきました。

情報基盤の取り組みご紹介については、学術機関でこまめに取り組んでいることを知らなかった方も多く、大学ならではの苦勞もお聞きすることができました。また、コロナ禍の対応においても、多くの学生さんや教職員を相手に仕組みを作ったり、変えたりすることのスピード感なども交えて現場の実態を共有いただきました。こういった取り組みも産学官の共創の中で効率化、即効性などの効果があげられると良いと感じました。

■コロナ禍での企画・運営

創立5周年のイベントは、当初、集合形式を前提とし、今回の講演をいただいた名古屋工業大学の施設を利用できるよう準備を進めていました。2020年3月に向けCOVID-19の

影響が拡大する状況となり、創立5周年のイベント開催の実現可否を判断する事態となりました。その後、計画の見直しを行い、開催日は当初予定どおりとし、開催形式をウェビナーに変更し実行することになりました。また、COVID-19の状況を考慮し、セミナー呼称を「創立5周年記念セミナー」から「創立5周年特別セミナー」と「記念」の表現を取り除いたものとなりました。

ウェビナーの開催は、中部ランチとして初めての企画でした。運用面、操作面で不慣れであるため、日本支部のセミナープログラムや事務局の方々の支援を受け、準備を進め、リハーサルを3回実施しました。セミナー当日も直前にリハーサルを行い本番に臨みました。運営スタッフはそれぞれの自宅や会社会議室などから参加し、300名を超える方を仮想空間上で目の前にし、緊張しながらもリハーサルどおりセミナーを開催しました。ウェビナーに変更したことで、全国21都道府県、また、国外からの参加もいただき、中部ランチの活動を多くの方に紹介することができました。

■最後に

セミナーに講演いただいた佐藤様、細川様、松尾様、準備・運用に協力いただいた方、そして、当日セミナーに参加いただいた方に感謝申し上げます。

皆様からいただいたアンケート結果、振り返り事項を参考にして、今後のセミナー企画、運営の改善、セミナーテーマ選定の参考にしていきたいと思っています。New Normalの時代を迎えるなか、この先、全国どこからでも私たちと一緒に活動できる環境が整っていくと思われます。ともに活動を進めましょう。

中部ランチでは、さらに10年、20年先のことも意識しながら、活動を進めてまいりますので、引き続き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

中国コミュニティが立ち上がりました！

PMI日本支部 副会長 浦田 有佳里

地域サービス委員会では、地域でのサービス向上と共に各地域の皆さまがコミュニティを立ち上げる支援をしています。地域でプロジェクトマネジャーのコミュニティを作るって、どうやって？と思われるのではないのでしょうか。

今年立ち上がった中国コミュニティは、PMI日本支部の地域サービス委員会が実施している過去の地域セミナーに参加された方々が中心となり、結成されました。はじめは地域サービス委員が呼び掛けて、交流会を行ったり、大学の先生をお呼びして勉強会を開催したりして少人数からはじまりましたが、次第に「継続してやっていこう」という機運が高まり、形が出来上がりました。

3年目の今年度には、広島在住のコミュニティの方々が企画し「PMI日本支部中国地域コミュニティ@広島 特別セミ

ナー」をウェビナー方式で開催するに至りました。広島にゆかりのあるPMI日本支部のアクティブメンバーや大学の先生も協力くださり、本セミナーには、神庭PM研究所 神庭弘年所長、広島修道大学 佐藤達男教授にご登壇いただきました。セミナーには200名近い方に参加登録いただき、セミナー後には6名の方々がコミュニティへの参加を申し出てくださいました。

地域のコミュニティでリーダーや中心的な役割を担うには、勇気やモチベーションが必要です。そして、その趣旨に賛同し、一緒になって活発なボランティア活動をしてくださる方々によってコミュニティは支えられています。そんなメンバーの方々に感謝しつつ、これからもPMI日本支部では地域を支援していきたいと考えています。

事務局長退任のご挨拶

PMI日本支部 事務局長 吉田 一弥

早いもので事務局長に就任して5年が過ぎました。

日本支部会員、PMPなどの有資格者の方々に提供する業務とサービス、国内外で開催されるイベントなどを通じて経験した数々の思い出が、今、走馬燈のように蘇ります。

先ず鮮明に思い起こされるのが、着任して早々PMI主催のLeadership Institute Meeting North America（通称LIMNA）に参加したことです。コンGRESS初日に前日本支部会長の神庭さんから、当時の本部の会長兼最高経営責任者だったMark Langley氏を紹介いただきました。日本支部の職員として新参者の私は、挨拶代わりにLangley氏に「前職で世界中のいろいろなコンGRESSに参加してきましたが、何故このコンGRESSには女性が半数近くも参加されているのでしょうか?」と質問したところ、「米国ではプロジェクトマネジメントはあらゆる産業、業種、業務に普及していて、多くの女性がPMを担っているからです」と説明してくれました。米国発祥のプロジェクトマネジメントの特徴を的確に説明していただいたのが強く印象に残りました。

一方、LIMNAなどのコンGRESSでは、世界各国支部の幹部やボランティアの方々にお会いする機会があります。その席で、日本支部の特徴として、

- ①日本支部はフルタイムの事務局員を擁する支部で、
- ②年間数十回支部主催のセミナーを開催し、
- ③数多くのPMスタンダードをボランティアの方々が日本語に翻訳していただいていることから、母国語による書籍を日本支部から購入できる、
- ④法人スポンサープログラムなどを提供し、企業内でのPMの普及に努めている、
- ⑤支部会員の方々だけが参加できる研究会があり、
- ⑥日本フォーラムでその研究会成果発表の機会がある、

と説明すると、皆さん様に日本支部の会員の方々の活動の広さとその機会の多さが羨ましいと言われます。会員の方々が関心のあるテーマについて、毎月定期的に沢山のボランティアの方々が一堂に会して議論・研究されていることで、この活動を通じた得られた知識と英知が企業、さらには日本全体の底上げに大きく貢献していると考えています。

この5年間での日本支部の新たな取り組みとして、新入会オリエンテーション、入会促進オリエンテーション、日本フォーラムやJapan Festaの全国ライブ配信（業者委託）、そして今年はコロナ禍のなか、日本フォーラムやJapan Festaの基調&招待講演のボランティアの方々のみによるZoomを活用したライブ配信、そして50件近くの研究会の講演録画配信の実施など、支部会員の方々へのサービス向上に努めて参りました。

コロナウイルスが収束するのは数年かかると言われています。ニューノーマルの時代にあった支部の業務とサービスをさまざまな角度から吟味・修正しながら、継続して実施し続けることが肝要と思っています。

なお、私自身は事務局長退任後も来年は事務局員として微力ながら業務に携わせていただきます。引き続き、新事務局長以下事務局員一同が理事、委員会、ボランティアの方々と連携して参りますので、変わらぬご支援、ご指導のほどお願い申し上げます。

この5年間大変お世話になり、本当にありがとうございました。

Stakeholders／法人スポンサー紹介

株式会社パスコ

1953年に航空測量会社として創業し、航空写真を元に戦後の復興のために地図を作ることを主な事業として行ってきました。その後、地図関連事業を拡大させ、GIS（地理情報システム）の日本におけるパイオニア的企業として、お客様の課題解決を支援する空間情報サービスを提供しています。

また、現在パスコグループは、セコムグループの地理空間情報サービス分野を担い、空間情報技術の活用による社会課題の解決を通じて、人と自然が共生する未来社会の構築に努めています。

これを機に、お見知りおきいただけますと幸いです。

1. パスコについて

(1) 経営ビジョン

地球をはかり、未来を創る ～人と自然の共生にむけて～

「はかる」という言葉はいろいろな意味を持っています。農地の面積など物理的な量を「測る」、道路など公共物の寿命を「計る」、災害の被害状況を「測る」、人の気持ちを推し「量る」など様々です。人類は原始の時代より社会を様々な視点からはかり、その成果を使って社会を発展させてきました。そして私たちは今、地球上に存在するあらゆるものをはかり、それを蓄積することで、「未来を図る」すなわち「未来を予測する」ことも可能になると考えています。

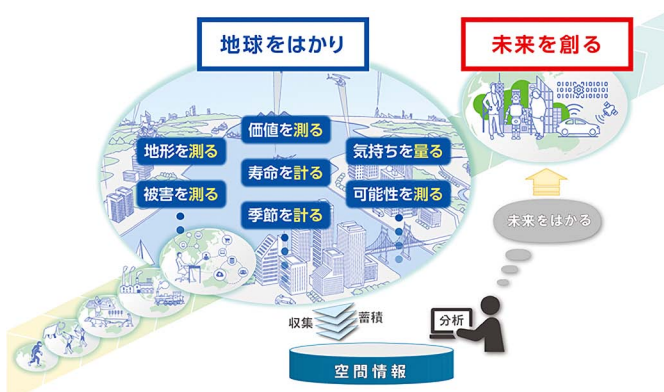
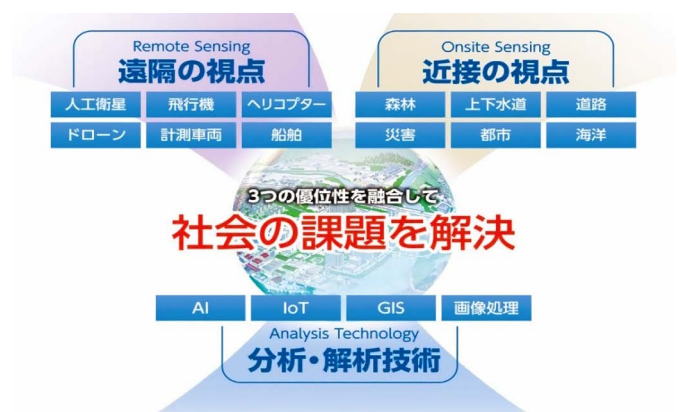
航空測量会社として創業したパスコは、測量・計測技術によって空から地球上を捉えることだけに留まらず、あらゆる

「はかる」を空間情報に融合させ、人と自然が共生した未来社会の構築を目指しています。

(2) 独自の競争力

「遠隔の視点（Remote Sensing）」と、「近接の視点（Onsite Sensing）」から地球上のあらゆる事象を捉え、さらにAIやIoT、GIS、画像処理などを活用した「分析・解析技術」を加えた3つの優位性を融合した技術力は、パスコ独自の競争力です。

2つの視点から収集した空間情報によって、現実の社会をコンピューター上（仮想空間）に構築し、解析・評価・分析する技術によって、過去から現在を捉え、そして将来を予測することによって、最適な解決策を導き出しています。そして、現実空間にその解決策を実装した成果を検証し、再び、仮想空間にフィードバックすることを繰り返し、国土や環境の管理や保全、インフラの維持管理、災害その他のリスク管理や対策など、社会の課題解決のために空間情報サービスを提供しています。



(3) パスコの事業とサービス、商品

パスコの事業は、国内公共部門、国内民間部門、海外部門の3つの事業分野から構成され、様々なサービスや商品を提供しています。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■株式会社パスコ

部門	事業概要
国内公共部門	「行政業務の効率化」、「インフラ維持管理」、「防災・減災、国土強靱化」などを推進
国内民間部門	「経営戦略の立案」、「物流の効率化」、「地域分析」などソリューションを提供
海外部門	開発途上国・新興国を中心に「国土空間データ基盤整備」、「環境保全・災害対策」などの事業を推進

上の図の中で、システム事業部は、国内公共部門や国内民間部門のお客様向けに、ITサービスの開発・提供などの業務を担っています。

また、PMP保持者を多数輩出し、PMI日本支部への関わりを深めています。

2. システム事業部におけるプロジェクトマネジメントの取り組み

(1) 取り組みの背景

システム開発業界では、「プロジェクト炎上」や「長時間労働」、「サイバーセキュリティ問題」など話題に事欠かず、プロジェクト・マネジャーと従業者は気の休まる時がないことは、皆さんも良くご存じだと思います。パスコにおいても例外ではなく、多くの悩みを抱える状況が続いてきました。

(2) プロジェクト監理マニュアルの制定と浸透活動

そこで、2009年に事業部内の技術標準「プロジェクト総合監理マニュアル」を策定し、サービス・製品の企画段階からプロジェクト計画、設計・開発、リリース、運用・保守に至るサービスマネジメントプロセスを標準化しました。策定当初は、独自手法で業務を遂行していた多くの技術者から反発を受けることもあったものの、粘り強く浸透を図り、今ではなくてはならないものになっています。その後も、マニュアルに準じてプロジェクトを遂行することで、プロジェクトの「失敗」を回避し、生産性や品質の向上につなげてきました。

マニュアルの制定とその浸透によってそれなりに効果を上

げましたが、プロジェクト成果の品質は、そのプロジェクト・マネジャーの力量に左右されることが徐々に明らかになっていきました。そのため、プロジェクトでのトラブルを減らしていくためには、「プロジェクトマネジメント力の向上が不可欠である」との考えに至りました。

(3) プロジェクト・マネジャーの育成活動

2014年からは、プロジェクト成功に向けたリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的に、外部教育機関と連携して「プロジェクト・マネジャー育成プログラム」を開始しました。毎年15名の受講者を選抜し、半年をかけてPMBOKを基にしたプロジェクトマネジメントの知識と、プロジェクト・マネジャーとして必要な人間力、実践力を総合的に学びます。

毎月2～3日の講習会の参加が必須となりますが、受講者は業務も行いながら参加するので、業務とのコンフリクトも当然ながら発生します。これらの解消も「できるプロジェクト・マネジャー」の実践である、との思いを胸に果敢に乗り切っています。プログラムの成績優秀者には、PMP対策講座&受験というインセンティブで受講者のやる気を引き出し、PMP保持者も増えてきました。

PMP保持者は、積極的に日本支部のイベントや研究会活動、月例セミナーなどに参加して、社内にフィードバックを行っています。

そして、これらの取り組みは、直接・間接的にシステム事業部の業績向上にもつながっています。

3. PMI日本支部に期待すること

この度2020年4月よりPMI日本支部の法人スポンサーに加入させていただきました。セミナーやスタディグループなどの機会を活用して、PMI日本支部の会員の皆様と情報共有や意見交換をさせていただくとともに、今後のプロジェクトマネジメント人材育成に活かしていきたいと考えています。

PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
 今般の新型コロナウイルス拡大防止の観点から、多くのセミナーは中止となっています。現在、リモート環境でのセミナー実施について鋭意検討中です。
 詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー／ワークショップ

● ステークホルダー・エンゲージメントの勘所 (ワークショップ)

- 日時：1月16日(土) 13:15～17:00
- 形式：ウェビナー
- 受講証明書発行ナシ

● PgMP® 資格セミナー ～プログラムマネジメント標準 第4版 概説～ 『日本人PfMP & PgMP 100名を目指して』

- 日時：1月29日(金) 19:00～21:00
- 形式：ウェビナー
- 2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● アジャイルプロジェクトマネジメント基礎

- 日時：3月2日(火) 9:30～18:30
- 形式：ウェビナー
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● アジャイル実践 ～知識から実践へ～

- 日時：3月23日(火) 9:30～18:30
- 形式：ウェビナー
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● 新春特別セミナー

- 日時：1月23日(土) 10:00～12:00
- 形式：ウェビナー
- 無料、2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● 2月度月例セミナー

- 2月19日(金)19:00～21:00
- 日時：2月19日(金) 19:00～21:00
- 形式：ウェビナー
- 無料、2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● ディシプリンド・アジャイル基礎

- 日時：3月3日(水) 9:00～18:45
- 形式：ウェビナー
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI日本フォーラム 2021

- 日時：7月10日(土)・11日(日)

【月例セミナー開催について】 2021年度の月例セミナーは、下記の日程で行います。

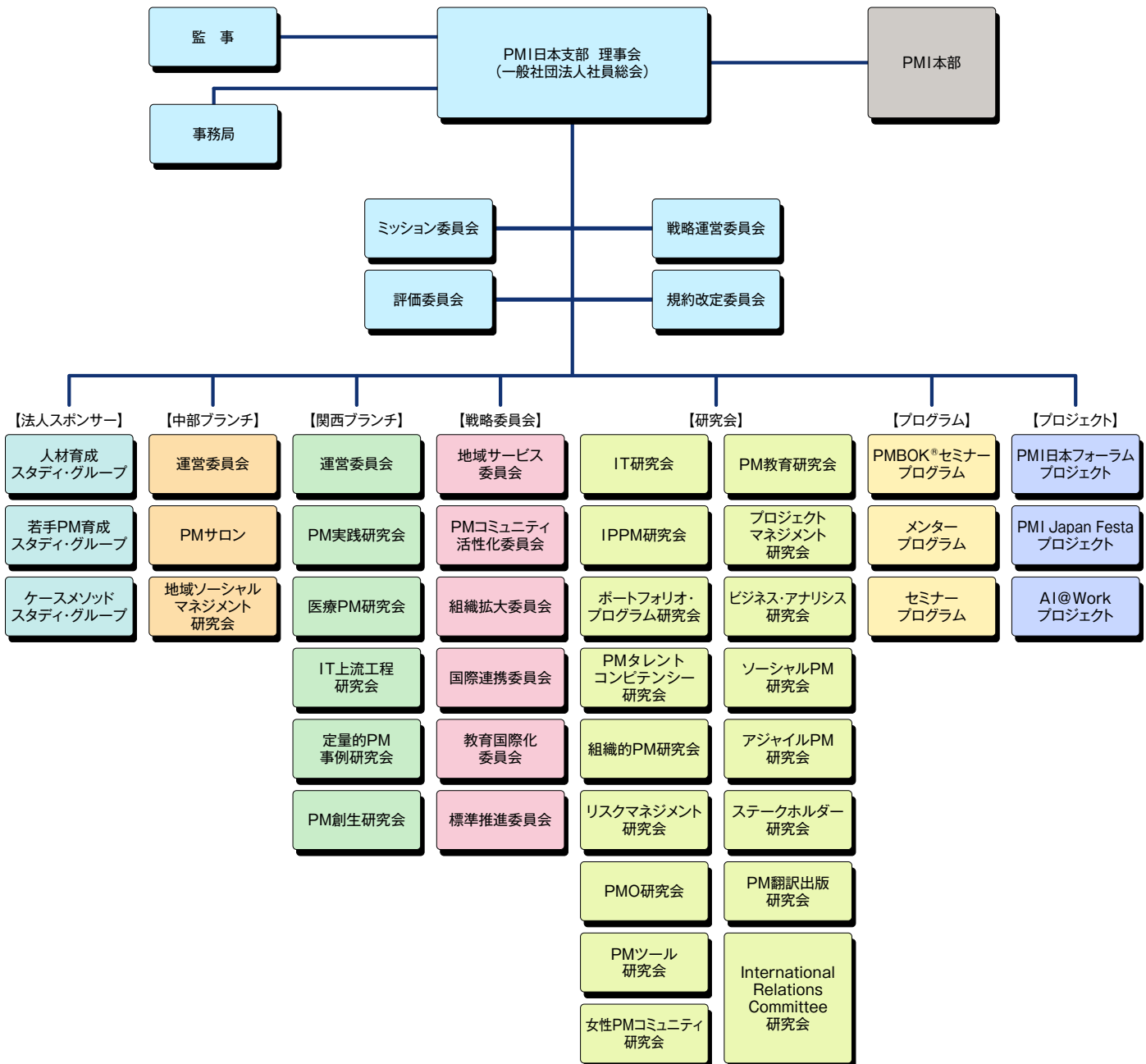
【日程(予定)】	(2021年1月23日(土) 新春特別セミナー)
① 2021年2月19日(金)	⑤ 2021年6月18日(金・仮) ウェビナー
② 2021年3月21日(日)	⑥ 2021年8月
③ 2021年4月16日(金・仮)	⑦ 2021年9月
④ 2021年5月15日(土・仮) ウェビナー	⑧ 2021年12月

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
 PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2020年12月現在)



Fact Database / データベース

■理事一覧 (2020年12月現在)

会 長	片 江 有 利	株式会社システムコストマネジメント
副会長	浦田有佳里	TIS 株式会社
副会長	奥 澤 薫	KOLABO
副会長	斉 藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
副会長	端 山 毅	株式会社 NTT データ
副会長	福 本 伸 昭	株式会社 JTB
副会長	森 田 公 至	日本アイ・ビー・エム株式会社

(以下、五十音順)

理 事	麻 生 重 樹	日本電気株式会社
理 事	池 田 修 一	株式会社ポジティブ・ラーニング
理 事	伊 藤 衡	小山工業高等専門学校専攻科 非常勤講師
理 事	伊 藤 芳 彦	株式会社三菱総合研究所
理 事	井 上 雅 裕	芝浦工業大学
理 事	岩 岡 泰 夫	株式会社国際開発センター
理 事	金子啓一郎	三菱電機株式会社
理 事	木 南 浩 司	株式会社マネジメントソリューションズ
理 事	富 岡 洋 子	株式会社 NTT データ
理 事	中 村 亜 子	パーソルラーニング株式会社
理 事	藤 井 新 吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
理 事	松 本 弘 明	株式会社オプティム
理 事	水 井 悦 子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理 事	山 本 智 子	川崎医療福祉大学
理 事	除 村 健 俊	芝浦工業大学
理 事	米 澤 徹 也	東洋エンジニアリング株式会社
理 事	渡 辺 哲 也	株式会社日立アカデミー
監 事	島 崎 理 一	OPTY 合同会社
監 事	山 中 良 文	JFE システムズ株式会社
監 事	渡 辺 善 子	株式会社日本政策金融公庫

■最新の会員・資格者情報 (2020年10月31日現在)

会員数		資格保有者数								
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®
PMI 本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
615,310 人	5,096 人	1,033,937 人	38,778 人	5 人	11 人	12 人	125 人	8 人	14 人	178 人

■行政スポンサー (2020年12月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

■法人スポンサー 一覧 (112社、順不同、2020年12月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ビューレット・パカード株式会社
- 株式会社アイ・ティ・ワン
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフト株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC株式会社
- パーソルラーニング株式会社
- 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS & A株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- SCSK株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティ・エス

Fact Database / データベース

- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & AD システムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社アジャイルウェア
- SBテクノロジー株式会社
- 株式会社インテジテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- セブンスカイズ株式会社
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- アクシスインターナショナル株式会社
- JFEシステムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 株式会社ビジネスコンサルタント
- サイフォーマ株式会社
- 株式会社オプテージ
- 株式会社JTB 情報システム
- 株式会社NTT データ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- ヤンマー情報システムサービス株式会社
- アフラック生命保険株式会社
- NEC ソリューションイノベーション株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (49 教育機関、登録順、2020 年 12 月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
- 岡山大学 教育研究プロジェクト戦略本部 戦略プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人国立高等専門学校機構舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 情報文化学科
- 地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

■ 日本支部がPMI Chapter Awardを受賞

PMI日本支部は、2019年の活動が評価され、世界の300支部の中でPMIが選ぶ最も優秀な支部としてChapter of the Year Award 2020を受賞しました。東アジアおよび東南アジア地域の支部として初の受賞となった舞台裏を含めて端山副会長がご披露しました。

■ PMI Japan Festa 2020 結果報告

11月7日・8日、セミナープログラムが企画・運営する「PMI Japan Festa 2020」がウェビナー形式で開催され、盛況裡に終了しました。7月の日本フォーラムでも舞台裏で大活躍だったセミナープログラムの方々20人が、そのノウハウとパワーを結集した記念すべきイベントとなりました。講演の一つひとつの概要をレポートしました。

■ 中部ランチ創立5周年

中部ランチは2015年のスタートから5周年を迎えました。9月26日に開催した創立5周年特別セミナーを中心に、中部ランチ代表の井奈波理事が5年間の活動を振り返りました。

■ 広島コミュニティの立ち上げ

10月31日に、広島で活動する4人のメンバーが中心となり「中国地域コミュニティ@広島 特別セミナー」を開催しました。関西や中部など「ランチ」を組織する前での画期的な出来事でした。これからのさらなる活発な活動が期待されます。広島でのコミュニティ形成の経緯を含めて、地域サービス委員会の浦田副会長がご紹介しました。

■ リーダーシップ・ミーティング LM2020 結果報告

「ニューノーマル時代の変革期におけるPMI日本支部の役割」をテーマにリモートで80人が集合してLM2020を9月に開催しました。今年で6回目になるこの会議は、戦略委員会のひとつ、PMコミュニティ活性化委員会が中心となって企画しています。Zoom、Google Jamboardなどを駆使した重要会議の概要を運営チームの伊熊リーダーが報告しました。

■ 吉田事務局長 退任挨拶

2015年10月に事務局長に着任した吉田一弥が2020年末に退任します。この5年間を振り返り、皆さまにご挨拶を申し上げます。

ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

2020年は新型コロナに始まり、新型コロナで終わろうとしています。皆さまも公私ともに多大な影響を被られたことと思います。

PMI日本支部に限って言えば、対面での皆さまとの触れ合い・交流はほとんど途絶えてしまったものの、各種イベントをリモート開催に切り替えて実施したことで、皆さまとの必要な「絆」は保つとともに、逆に今までには無かった遠方の方々とのつながりを築けました。

さまざまな常識が一変したこの一年。ここで得た経験・教訓を礎に、ニューノーマルが定着する2021年は胸を張って迎えたいと思います。

2021年もどうぞよろしくお願い致します。

PMI日本支部ニューズレター Vol.85 2020年12月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)